

入賞・最終選考作品集



主催／福島県教育委員会

五七五

く世代を越えてハーモニーく

十七字のふれあい

平成十七年度 豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業

入賞作品



最優秀賞

ひらおよぎ れんしゅうしても むずかしい

郡山市立日和田小学校 一年 白方 椰宗

一、二、の三、 布団で親子の 平泳ぎ

母 白方 理恵子

〈創作の動機〉

この夏、スイミングスクールで平泳ぎを習っています。平泳ぎの足が苦手な子どもと、夜、寝る前に、親子で布団の上で、一緒に平泳ぎの練習をしています。

〈評〉

教育の原点は、家庭での教育にあり、何気ない普段の生活の中で、営まれています。この作品は、親と子のあふれる心情と本気な姿が余すところなく目に浮かぶ、まさに日常のふれ合いの大切さに気付かせてくれます。

〈塚本 繁〉

このおいも ぼくのかおより 大きいぞ

須賀川市立稲田小学校 二年 粕壁 隼人

太陽と 家族総出の おいもほり

祖母 粕壁 キエ

〈創作の動機〉

暑い夏の日、家族全員で、じゃがいもほりをして、汗を流し頑張った様子です。

〈評〉

自然の営みに対する新鮮な驚きと家族ぐるみでの協働の汗とが子どももの心にかげがえのない大事な種を植え付けられている様子が感じとられます。親と子の共通の実体験こそが、最大のコミュニケーションです。

〈塚本 繁〉

木地づくり 夏と一緒に あつくなる
汗ぬぐい 娘に手を添え 木地を挽く

下郷町立植原小学校

六年

渡部

ほなみ

父 渡部 義文

〈創作の動機〉

日本で唯一の水車動力を利用した木地を挽くろくろが、地元地区に完成しました。村おこし事業による体験学習が行われ、参加してきました。木地挽き技術を絶やさぬよう伝承したいものです。

〈評〉

日本古来の伝統技術の「木地挽き」を次世代に「伝えたい。」「受け継ぎたい。」という心意気が手に取るように伝わってくる表現になっています。父と娘さんの組み合わせという点を考えると、なお、感激します。この親子関係は、いつまでも続いてゆくと思われます。

〈津村

栄〉

かぶとむし パパととりたい なつのよる

私立同朋幼稚園

年長

手塚

勇 登

虫採りへ 電気の下へ 父本気

父 手塚 俊 秀

〈創作の動機〉

よく家族で夜に虫をとりに出かけ、子どもも親もかぶとむしに夢中になります。

〈評〉

大好きなパパとかぶとむしを取りたいというお子さんの気持ちとそれに応えようというパパの思いが素直に表現されていて、ほほえましく思います。このようないつ二つの体験が、親子の絆を深めるために大切なことだと強く感じます。

〈坂本

忠雄〉

魚つり 気の合う二人 父とぼく

二本松市立岩代中学校

二年

三浦

充 洋

久しぶり 話せる時間と 魚つり

父 三浦 洋 二

〈創作の動機〉

中学生になり、親子で二人共通の魚つりをする事になって、あまり話のなかった事がうそのように楽しく話せて、とてもよい時間がもてたような気がしました。

〈評〉

男の子なら誰でも興味を持つ魚つりの機会をつくり、ややもすると会話が疎遠になりがちな青年前期の息子さんをぐっと引き寄せた父親の手腕と魚つりをおとしている子どもさんとの見事な心の一致に頭がさがります。

〈津村

栄〉

優秀賞

ホームラン ほんきでなげた ちちのたま

福島市立東湯野小学校 一年 伊藤雄太

ホームラン わざと打たせた ゆるいたま

父 伊藤文雄

〈評〉

親子のほほえましい触れ合いを巧みに詠み込んでいることに感心しました。お父さんの本心を知らずにホームランを打ったと手放しで喜ぶ我が子を温かく見つめるお父さんの視線に感心します。

〈坂本 忠雄〉

あさがおの かずをかぞえて かずおぼえ

私立岡ノ内幼稚園 年中 小森俊幸

朝顔の 数をかぞえる 朝仕事

母 小森こずえ

〈評〉

種から育てた大切な朝顔なのでしょう。ようやく咲き始めた花を一生懸命数えている子どもさんの姿が浮かんできます。また、その子を見守り、時には、そっと応援するお母さんの優しさが伝わってきます。

〈坂本 忠雄〉

やさいもぎ いろんな虫の レストラン

郡山市立富田西小学校 三年 横山夏海

手伝いと ほとんど遊び おじやま虫

祖母 横山憲子

〈評〉

お子さんが、虫食いの野菜を「レストラン」のようと詠んだことに感性の豊かさを感じますし、ほとんど「おじやま虫」とは思いながらも、広い心で見守るおばあちゃんの優しい視線を感じます。

〈坂本 忠雄〉

風をきり 親子ではしる ツーリング

白河市立白河第二中学校 三年 益子萌

久々に 娘とタンDEM 夏の午後

父 益子清美

〈評〉

父と子で同じ自転車を漕ぐ、なんとも素敵な光景です。父子の対話が乏しいと言われている中、サイクリングを通しての対話から様々なやりとり、そして心のふれあいへと深まっていることを感じます。

〈坂本 忠雄〉

滝川の 慣れたみちのり 母を連れ

矢祭町立矢祭中学校 三年 益子賢介

溪谷の さわやかさ増す 子のガイド

母 益子直子

〈評〉

母娘が連れだって歩みながらの語らいの中に、わが子の確かな成長をかみしめ、何ともさわやかな情景が素直に表現されています。

〈塚本 繁〉

暑い夏　せみより高い　母の声

大熊町立大野小学校　四年　渡　邊　麻里菜

宿題を　せかしにせかす　盆休み

母　渡　邊　庸子

〈評〉

宿題は誰のための何のためのものなのかは親子共々わかってはいますが、計画的に進まないのが現実です。本当は、家庭学習の支援ではなく、親ならではの家庭教育が大事であることも問題提起しています。

〈塚本　繁〉

初夏の朝　さあ鮎つりへ　出発だ

檜葉町立檜葉南小学校　六年　大和田　さつき

朝もやに　わが娘うきたつ　つり姿

母　大和田　只　枝

〈評〉

待ちに待った鮎の解禁に、今年も母娘で出かけ昨年よりひとまわり大きくなった娘の姿を見つめています。この親子の鮎釣りの共通体験は、将来につながる宝物が沢山詰まっていることでしょう。

〈塚本　繁〉

はじめての　キャンプでどきどき　ねむれない

二本松市立上太田小学校　一年　本　多　遥　香

初めての　キャンプで親が　一年生

父　本　多　和　紀

〈評〉

野外活動は、現在の私たちには、不可欠なもの一つと思います。特にキャンプは、子どもの大好きなものです。子どもさんの興奮度、お父さんの初体験への心配さが手にとるようにはわかります。この「家族愛」をいつまでも…とお祈りします。

〈津村　栄〉

会津弁　一番上手は　おばあちゃん

会津若松市立城西小学校　三年　物　江　陽

楽しみに　孫がまねする　そうだなあ

祖母　岩　本　トモエ

〈評〉

方言の持つあたたかさとか人間らしさが再考されている昨今。見事なまでにお家での方言についての様子を表現していて、ほほえましい限りです。これからも「ええ孫、ええばあちゃん」でいてくなんしよない。」

〈津村　栄〉

母の手は　あみよりすごい　まほうのて

喜多方市立慶徳小学校　四年　那知上　嘉　海

自称から　セミ取り名人　公認へ

母　那知上　孝　子

〈評〉

「昔とったきねづか」ということを心にくいまでに表現してくれました。「母の手はあみよりすごい」「自称から…公認へ」の流れるような調べは抜群の手腕です。このような「光る言葉」を用いたことをうれしく思います。

〈津村　栄〉

佳作

スイカわり 地面たたいて 手がビリリ 二本松市立油井小学校 三年 大内 博人
どうせなら 最後の子まで 割れないで 母 大内 真理

ばあちゃんとおずきとる手がもういたい 須賀川市立長沼小学校 四年 遠藤 和佳奈
孫のあと 残りの小豆 そつと取る 祖母 遠藤 春子

いわのかけ かにがたくさん かくれんぼ 白河市立みさか小学校 一年 花見 清弥
子供追い いつしか我も 子ガニ追い 母 花見 幸子

手をつなぎ 仲良く散歩 空の下 鮫川村立鮫川小学校 六年 青戸 可奈子
反抗期 今日は素直に 手をつなぎ 母 青戸 美枝子

書きたりぬ グラフ貼りたし 稲の丈 柳津町立柳津小学校 五年 小川 真優
観察の 眼まなこ咲かせし 稲の花 祖母 小川 サイ子

ぼんおどり たいこにあわせて よういとしよ 昭和村立昭和小学校 三年 栗城 結衣
孫と子と 手を打ち合せ 輪の中へ 祖母 栗城 ナミ子

ハウセンカ さわればまほうの 種がとぶ 原町市立大甕小学校 三年 島 実咲
ハウセン花 飛び散る種の 重さかな 祖母 島 ムラ

手を合わす 祖母の背中に 赤とんぼ 小高町立小高小学校 六年 白土 あすか
関伽桶を 持つ孫今年 六年生 祖母 吉田 ヤイ子

うきわなし ひとりでおよげた なつやすみ いわき市立好間第一小学校 一年 木田 衛
バタ足で ここまで来いと 手を伸ばす 父 木田 修一

お母さん 絵文字でメール 意味不明 いわき市立大浦小学校 六年 加藤 拓也
初メール 絵文字を入れて 母 加藤 みどり

特別賞

はんごうで 食べたごはんは 夏のあじ 伊南村立伊南小学校 四年 五十嵐 達徳
 不便さも 笑顔に変わる 初キャンプ 母 五十嵐 元美

なつやすみ パパとそだてた カブトムシ 私立希望ヶ丘幼稚園 年中 樽川 奈々
 角を持つ 笑顔の先で 母は逃げ 母 樽川 智穂

おとうとと ないたわらった なつやすみ 小野町立小野新町小学校 一年 斎藤 雄也
 まごふたり なまえれんこの なつやすみ 祖母 斎藤 八瑛子

にげたカメラ おっかけまわし 日がくれた 郡山市立高瀬小学校 二年 赤平 玲奈
 カメラ探し 大事な植木 ふみにじり 曾祖母 国分 ムツ

ぼくだけの プールの先生 おじいちゃん 須賀川市立稲田小学校 四年 佐藤 晟也
 年忘れ 孫かわいさに 水あそび 祖父 添田 義夫

山登り 母が花の名 いい当てる 石川町立沢田中学校 二年 高木 詩織
 朝つゆで シナノキンバイ 金の盃 母 高木 英美

高張に 手を振る母を すぐ見つけ 白河市立白河中央中学校 三年 小川 菜津子
 かけ声と 法被姿が 胸にしみ 母 小川 睦子

父さんが 遊んだ川で 水しぶき 伊南村立伊南小学校 六年 河原田 知愛
 子らと川 あの頃浮かぶ 箱メガネ 父 河原田 信弘

秋にはね 家族が一人 増えるんだ 鹿島町立八沢小学校 六年 浜田 泰誠
 妊娠で 息子のやさしき 見つけたよ 母 浜田 由紀子

この道に 花いっぱい 希望こめ 県立新地高等学校 二年 佐藤 寿樹
 花植えの 手を止めて知る 子らの笑み 地域の指導者 目黒 淑元

最終選考まで残った作品

お父さん めがけてなげて ストライク

福島市立佐原小学校二年 渡部 広大

我が子との 夢にまで見た バッテリー

父 渡部 謙一

なす畑 りっぱな馬を さがしだす

桑折町立半田醸芳小学校六年 松原 千夏

三世代 盆棚かざる うれしさよ

母 松原裕美子

潮干狩り 貝と私で おにごっこ

梁川町立梁川小学校四年 太田 真琴

泥まみれ 三人あわせて 一人前

母 太田 郁子

わたしやる ませこねまるめ とくいなの

古殿町立田口小学校三年 遠藤 愛

いもだんご まごのひたいに あせきらり

祖母 遠藤ヨシイ

夏祭り よさこいおどって 楽しいな

泉崎村立泉崎第二小学校四年 高木 彩絵

跳ねる子と 鳴子に誘われ 輪に入り

母 高木 邦子

ハートがた おにくこねこね ハンバーグ

矢祭町立石井小学校三年 安住樺奈子

父が焼き 母のソースで かざりつけ

母 安住 紀子

お月見の すずきが映った 障子窓

白河市立白河中央中学校一年 三木 智世

おだんごを 丸める娘と おつきさま

母 三木 貴子

キャンプ場 父のやきそば 世界一

鹿島町立鹿島小学校三年 山崎 真里

小さな手 食器の重さに しなるうで

父 山崎真一郎

ままのふく かかしがきてたよ たのしいな

原町市立原町第三小学校一年 高野 未玖

顔じゅうに 墨を塗られて 案山子立つ

母 高野 理江

本番だ 手話コーラス 初舞台

広野町立広野小学校五年 岡 美月

届いたよ 娘の手から 愛のうた

母 岡 峰

母の球 父とはちがう あたたかさ

富岡町立富岡第二中学校二年 中山 駿

キャッチボール 昔バウンド 今速球

母 中山いづみ

自てん車に やつとのれたぞ あせだらけ

いわき市立郷ヶ丘小学校二年 松本 美織

シャワーする 娘の足は あざだらけ

母 松本 公子

見つけたぞ 時空をこえて サメの牙

いわき市立菊田小学校四年 笠見 幸大

汗落ちて 滴のとなり 化石あり

父 笠見 忠仁

梅雨あけに 心も晴れる キャッチボール

いわき市立中央台東小学校六年 宮内 優人

梅雨晴れ間 孫の速球 老いの手に

祖父 宮内 三郎

おてつだい あつさの中で いもをほる

いわき市立田人第二小学校六年 大和田彩香

てつだいの いもをほる子の たのもしさ

母 大和田弘子

剛速球 捕ってみせるぞ 父の球

いわき市立三和中学校一年 佐藤 大夢

この程度 捕れねばレギュラー 外れるぞ

父 佐藤 和芳

夏休み キャッチボールだ おとうさん

福島市立福島第三小学校四年 森谷 友昭

直球を 受けて感じる 子の成長

父 森谷 幸二

ももとりで かわいたのどに ひとかじり

福島市立福島第一小学校三年 松原 直希

やわらかき 子のほほと似た ももをもぐ

母 松原美和子

つり橋で 下を見ちゃった 動けない

霊山町立大石小学校五年 中村 健人

子どもの手 つかんだ我が手も ふるえてる

母 中村 貴子

花笠で みんな団結 笑顔の輪

本宮町立本宮第二中学校二年 津守 遥菜

花笠は 夏の夜に舞う まんげきよう

母 津守 恵子

「お疲れ」と こぼれる笑顔が バイト代

東日本高等学院一年 景井 明実

桃取りと 箱詰め作業で 同じ汗

母 景井 恒子

ひまわりに まいにちみずやり がんばった
郡山市立行徳小学校一年 森 絵玲奈
ひまわりと わが子の笑顔 庭に咲く
母 森 玲子

すとりいく ちゃんとなげてね おとうさん
三春町立中郷小学校一年 柳沼 祐哉
我が息子 バットも親父も 振り回す
父 柳沼 正和

ぼくのだよ つりあげたカニ おかあさん
郡山市立上伊豆島小学校一年 木村 太星
磯遊び つられて釣れて つい本気
母 木村 亮子

さんぎょすくい ねらった魚は にがさない
須賀川市立柏城小学校二年 関根 里菜
金魚すくい ゆかたの袖まで 水びたし
母 関根真由美

ばあちゃんの はたけはわが家の やおやさん
古殿町立田口小学校三年 本郷 紗香
振りおこす じゃがいも孫と カゴに入れ
祖母 本郷 好

がんばって つくったゆのみは せかいいち
郡山市立安積第二小学校五年 佐藤ちなみ
父と子で 作る湯のみの 茶のうまさ
父 佐藤 義一

SLの まどからさけぶ 父さんと
須賀川市立西袋第一小学校五年 松浦 拓也
息子乗る 汽車の煙を 追いかける
父 松浦 信忠

あせいっぱい ボールをおいかけ 走るぼく
須賀川市立西袋第一小学校五年 柴田 岳
応援の 背中つきさす 日差しかな
母 柴田くみ子

葉たばこの 仕事手伝い あせかいた
田村市立美山小学校五年 松本 拓也
葉たばこで 息子に見せた カゴぶ
父 松本 明

夏休み あせとなみだの ハーモニ
田村市立滝根小学校五年 佐々木奏子
成功と 祈るまなざし 舞台まで
母 佐々木寿子

秋の夜 母のお話 子守り歌
郡山市立富田東小学校六年 上前万由子
読みきかせ 寝顔ほほえみ 夢の中
母 上前 昌子

手伝いを 進んでやると 母笑顔
郡山市立片平中学校二年 伊東 千晶
キッチンで ならんで気付く 子の成長
母 伊東みゆき

母の味 受けつけるかな 私でも
須賀川市立仁井田中学校三年 双石 穂香
手伝うね 会話はすませ 野菜切る
母 双石 祥子

起きぬ朝 目ざまし時計 母の声
三春町立桜中学校三年 橋本紗緒里
効果あり 目ざましよりも 着信音
母 橋本 洋子

ねがいこと ウルトラマンに なりたいな
泉崎村立泉崎幼稚園年少 中野日風雅
短冊に 幸多かれと 願いこめ
祖母 塩田 邦子

おいしいね みんなでつくる ゆうごはん
私立白河カトリック幼稚園年長 先崎 真由
まゆちゃんの ちぎったレタス みじん切り
母 先崎 聖子

ご飯つぶ だらけの手でも 楽しいね
白河市立白河第四小学校五年 星 梨奈
不揃いの おにぎりほおばり 涙ぐむ
母 星 麻由美

ばあちゃんの むかしばなしは おもしろい
白河市立関辺小学校一年 鳴島 俊輔
聞かせたい 心豊かに 育つよに
祖母 鳴島あや子

見覚えのある服着てる お母さん
西郷村立小田倉小学校六年 高橋 祐貴
いつの間に 息子のおさがり ちょうどいい
母 高橋真由美

決まったよ 母さん先に うれし泣き
西郷村立米小学校三年 永山 縁
あと一点 神も仏も みんな来て
母 永山 悦子

すなはまで かいがらいつぱい かくれんぼ
白河市立表郷小学校一年 村木 美和
ふたりして 見つけた貝がら 夏土産
父 村木 英則

海岸で やどかりニひき かくれんぼ
矢吹町立善郷小学校三年 佐久間文香
貝がらを 見つけるたびに 走り来る
母 佐久間淳子

夏休み 初めてのシチュー ころみなし
 嬉しみは 娘の作る 料理かな
 母 渡辺 浩子

やっときた ちょうちん祭り デビューの日
 白河市立白河中央中学校二年 大野 翔
 ビデオ買い いやがる息子 おいかける
 母 大野ヒロ子

セミの羽化 飛ぶと思いき 一休み
 中島村立中島中学校二年 吉田 秋人
 おおさわぎ カメラ片手に セミの羽化
 母 吉田富美江

お料理を 手伝いながら つまみ食い
 白河市立大信中学校三年 深谷 緑
 ひとつづつ 覚えてほしい 母の味
 母 深谷賀津子

じてんしゃに ひとりでのれて うれしいな
 柳津町立柳津小学校一年 小川 真愛
 汗だくの はじける笑顔 抱きとめる
 父 小川 茂樹

なつの空 サンリがうかぶ きれいだな
 会津美里町立高田小学校二年 室井 千穂
 指さして 夏の夜空の 星巡り
 母 室井三智子

もう少し 母の背だけに おいつくぞ
 塩川町立駒形小学校六年 須田 美伶
 まだまだと つま先立ちで 背比べ
 母 須田 綾

せみのうか 夏の夜光る ほう石だ
 会津若松市立城西小学校三年 玉木 祐也
 神秘的 子と見つめ合う セミの羽化
 母 玉木ひとみ

夏休み クワガタムシと 昼ねする
 会津若松市立城西小学校三年 貝沼 留衣
 クワガタも 子供が取れば 好きになり
 母 貝沼 裕子

ばあちゃんの なんでもつくる手 まほうの手
 会津若松市立城南小学校二年 山内 綾乃
 大きさを 孫と競って 芋を掘る
 祖母 山内トシ子

かあさんと たたくたいこは 楽しいな
 金山町立金山小学校三年 五ノ井優花
 和太鼓で 母子の心 通じあう
 母 五ノ井恵美

グローブに ねらいをさだめ 投げる球
 喜多方市立岩月小学校五年 山崎 達也
 いつの間に 投げるスピード 身構える
 父 山崎 治二

一日の 出来話話し リラックス
 喜多方市立岩月小学校六年 田崎 寛佳
 バスルーム うさも疲れも 流されて
 祖母 穴澤サク子

汗だくで マラソンしたあと 気持ちいい
 喜多方市立岩月小学校六年 渡部 紗代
 手をつなぎ 娘と走る 蔵の町
 父 渡部 文男

お手玉を チクチクぬって 指いたい
 喜多方市立慶徳小学校三年 山口 茜
 裁縫箱 久しぶりだね さあ出番
 母 山口すが子

楽しいな そらにはなさく なつのよる
 喜多方市立喜多方第二小学校五年 大木 遥香
 きれいだね 空に花火の お絵書きだ
 母 大木 淳子

ハンカチで ビー玉包んで 草木染め
 昭和村立昭和小学校五年 五十嵐幸博
 子と共に ハンカチ染めて 秋の色
 母 五十嵐純子

予やくなし ぼくのとこやは お母さん
 伊南村伊南小学校三年 羽染 優
 空梅雨や 子の髪を切り 汗ぬぐう
 母 羽染 弘恵

夕立ちが トマトの顔を ピカピカに
 新地町立福田小学校四年 高橋 由実
 夕立ちの シャワーで光る トマトかな
 母 高橋みなみ

かあさんの えみがみたくて おてつだい
 小高町立福浦小学校六年 佐藤 達哉
 やったよと えがおでほうこく えみかえす
 母 佐藤 玲子

朝顔が 天に向かって 伸びて行く
 浪江町立浪江小学校六年 渡部 大樹
 朝顔の 困り果てをり 棒の先
 父 渡部 健

夏祭り 僕らの太鼓 なりひびく
 広野町立広野小学校六年 舞木 一真
 「セイヤー」と バチ振るわが子の 勇ましき
 母 舞木 順子

お母さん 私の鼻歌 マネをする

川内村立川内中学校三年 秋元 優奈

マネじゃない いっしょにデュエット したいだけ

母 秋元佳奈美

父母と すぎゆく夏の 花火の夜

広野町立広野中学校一年 松本 絃明

大輪の 花火のごとき 子供たち

父 松本 正人

旅立ちを 校歌で送る 高らかに

県立新地高等学校二年 泉井 和徳

涙ぐむ 螢の光に 幸あれと

地域の指導者 寺島 洵一

おてつだい ママといっしょで たのしいね

岩代町立岩代幼稚園年長 佐藤 大起

ごはんはね ビタミン愛が いっぱいよ

母 佐藤あすか

じいちゃんと お風呂で背中 洗いっこ

福島大学附属小学校五年 太田 侑希

孫の背は いつの間にか たくましく

祖父 小松 榮

暑い日に 芋ほり手つだい ほめられる

福島市立茂庭小学校四年 木村 尚貴

芋掘って 笑顔広がる 三世代

父 木村 弘美

むしとりに やまやかわべを かけまわる

福島市立月輪小学校一年 梅宮 蒼太

カブトムシ めぐりあえずに 蚊にさされ

祖父 梅宮 勇治

太陽で かがやく野菜 おいしいな

福島市立月輪小学校六年 佐藤 満葵

とりたてを みんな「せーの」で かぶりつく

父 佐藤 拓

たのしいな はじめてのぼる あずまやま

川俣町立小島小学校四年 田代 昌紀

負けまいと 子どものあとに 続く親

母 田代 恵子

腕ずもう 父ちゃんなんか 負けたくないぞ

桑折町立伊達崎小学校六年 石幡 和也

腕ずもう 子供相手に マジになる

父 石幡 弘

本当は 強いのかなあ おじいちゃん

桑折町立醸芳小学校五年 二瓶こころ

囲碁勝負 回転早い 孫にマゴマゴ

祖父 佐久間軍平

なまはげに まじかに出合い ああこわい

桑折町立睦合小学校五年 浅野 由貴

なまはげに 教えを託し 効果あり

父 浅野不二男

ゆうだちで よろこぶカエルと やさいたち

本宮町立五百川小学校三年 杉山 太遊

夕立の 外へとび出る 孫の声

祖母 横山 捷子

相手見て 心読みとり 勝ち目あり

白沢町立白岩小学校六年 服部 祐介

将棋さす 息子の駒に 願いこめ

父 服部 隆

山登り 茶白岳の 風涼し

本宮町立本宮第二中学校二年 鈴木 香菜

夏山を 登る体力 しばらくだす

母 鈴木 淳子

魚つり テトラの間から 大物が

二本松市立岩代中学校二年 高橋 愛美

海の日 親子の絆 釣れたかな

母 高橋 章子

ダイビング カマスの群れが メンソール

二本松市立安達中学校一年 太田 大貴

海の中 気配る親に 目もくれず

父 太田 幸一

残り雪 山ふところに 我をまつ

本宮町立本宮第二中学校一年 遠藤 幸

点々と 地塘に映る 親子影

母 遠藤 明美

この瞬間 我は無になり いざ勝負

保原町立桃陵中学校三年 猪狩 翼

優劣を 越えて励んだ 君まぶし

母 猪狩久美子

ほうちようで 野菜トントン 楽しいな

私立希望ヶ丘幼稚園年長 阿部 雅功

おてつだい 子供の手元 見てヒヤリ

母 阿部 和恵

とりたいな たかいきのうえ かぶとむし

鏡石町立鏡石幼稚園年長 大河原健太

子供より むちゅうになつて キズだらけ

父 大河原昭一

てをのばし すすんだバタあし うれしいな

須賀川市立西袋第一小学校一年 久和しゅうか

水遊び 童心にかえるも 息切らず

母 久和こずえ

かいがらの ふうりんのおと なつのかぜ
郡山市立永盛小学校三年 菊地 杏依
杏依作る 風鈴の音 夕涼み 父 菊地 愛信

あせながし すぐつかれる やまのぼり
郡山市立太田小学校三年 本田 周平
山登り 汗と勇氣に ユリが咲く 母 本田 幹子

岩の上 立ったら風が きもちいい
田村市立古道小学校二年 今泉 翔馬
手を広げ 飛べる気がした 岩の上 母 今泉 泉

はかまいり せんこうたてて こんにちは
須賀川市立阿武隈小学校二年 五十嵐晋麻
手をあわせ 母のにおいを 思い出す 母 五十嵐 都

せみおって あみとむしかご はしってく
石川町立山形小学校三年 木戸 彩香
太陽に 負けない我が子 虫を追う 母 木戸 律子

五ならべで いっぱい勝てた 夏休み
郡山市立薫小学校三年 下田 泰知
孫達の 早い進歩に しわが増し 祖父 下田 澄晴

あがったぞ そぼと作った ぼくのたこ
田村市立要田小学校三年 松本 勇志
三代の たこが空舞い 子の笑顔 母 松本 紀恵

ねん土達 ろくろに乗れば おどりだす
天栄村立牧本小学校四年 水沼 大地
子の手から 見え隠れする 子の想い 母 水沼 宣子

見てくれた シュート決めた 初勝利
郡山市立安積第一小学校五年 佐藤 亜美
声からし 娘のプレー 声援す 母 佐藤 佳代

朝ごはん 今日の元気が わいてくる
郡山市立富田東小学校五年 国分 勇磨
おはようの 笑顔もおかずの あさごはん 母 国分 洋子

重い酒 ばあちゃんの顔に 光る汗
鏡石町立鏡石第一小学校五年 松崎 有香
配達の 孫の手伝い 宝もの 祖母 松崎千代子

いつの日か プロのなるぞと 力こめ
浅川町立浅川小学校五年 伊野田芳樹
強い球 息子の送球 しびれる手 母 伊野田 薫

夏休み 畑手伝い 野菜とり
須賀川市立長沼小学校五年 高橋 俊智
こちよい はさみの音と 蟬時雨 母 高橋利栄子

リハーサル 練習なのに きんちようだ
須賀川養護学校郡山分校五年 古川 陽
見えぬ手で ふるえる心 包みこみ 教師 菊地 聡子

小体連 気合いででした 十三秒
石川町立石川小学校六年 関根 新
独走の 韋駄天走りに 父涙 父 関根 竜太

勝てるかも 思って勝てず 父の腕
田村市立滝根小学校六年 郡司 政人
腕相撲 まだまだ負けず 父の意地 父 郡司 公夫

できました 母をうわまる 名コック
郡山市立桃見台小学校六年 佐藤 栄奈
いつの間に 料理を作る 我が娘 母 佐藤 純子

卓球で 意外と強い おばあちゃん
三春町立沢石中学校一年 佐久間真美
久しぶり 孫と遊んで 顔ゆるむ 祖母 佐久間政子

寝苦しい 夜に足元 水枕
郡山養護学校高等部一年 相田 亜輝
水枕 寝息安らか 夢枕 父 相田 和夫

おばあちゃん とんぼとってよ 何匹も
中島村立中島幼稚園年中 鈴木 滉大
とれたよと 渡してすぐに 逃がす孫 祖母 鈴木 令子

やまのぼり たいちようさんは つかれない
矢祭町立石井幼稚園年長 小松 陸
頑張って 歩く姿の たくましさ 母 小松 淳子

ママよりも 詳しくわかる 虫のこと
西郷村立まきば保育園年長 高根沢雄太
母が聞く この虫の名を 教えてと 母 高根沢澄美子

おじいちゃん はたけにデザート 食べにいこう
白河市立白河第一小学校二年 小野 剛史
孫来る日 この日のための すいかの収穫
祖父 阿部 七郎

お母さん 初めてだよね ひとりじめ
白河市立白河第一小学校五年 小山絵理香
末っ娘と 初めての旅 博覧会
母 小山しづ子

あみ団み 花火も空から 仲間入り
白河市立五箇小学校六年 白石 和佳
網の上 酒の肴か 笑い声
父 白石 美則

ぼんの日の むかえ火たいて おでむかえ
白河市立五箇小学校四年 瀬谷 辰義
新盆の 雨は父の 涙かな
母 瀬谷 弘子

かぶとむし ぼくのおうちに はやくきて
西郷村立熊倉小学校一年 永木 涉
子のためと 苦手な虫を 探す日々
母 永木 芳子

かるたとり かぞくみんなで たのしいな
白河市立表郷小学校二年 緑川 拓海
かるた読み 孫とふれあい ボケ防止
祖母 緑川 京子

お手伝い 今日はギョーザの 包みかた
白河市立表郷小学校四年 穂積 諒二
これぼくの 形でわかる ギョーザたち
母 穂積 明美

ただして なにあじたべた かきごおり
白河市立小野田小学校一年 會田 博奈
シロップで 色遊びする かきごおり
母 會田 広子

汗びっしより ボールを追って 父追って
中島村立滑津小学校六年 久保田夕貴
気持ちいい コートに飛び散る 同じ汗
父 久保田勝紀

へびこわい だけにげない ぼくつよい
矢吹町立善郷小学校一年 柏木 理希
やまかがし 子どもの手前 やせがまん
父 柏木 直樹

ボール投げ もっとうまく ながてよね
白河市立大屋小学校五年 白岩 悠宇
それくらい うまくとれよと いいわけし
父 白岩 正二

夜のそら みんなたのしく ほたるとり
泉崎村立泉崎第二小学校四年 須藤あずさ
しりとりを しながらさがす 初ほたる
父 須藤 英樹

はじめての なしのかわむき たのしいな
塙町立常豊小学校一年 生方 誠人
ぎこちない ほうちようすがた かつこいい
母 生方 誠子

ばあちゃんの 汗の味する いもの汁
矢祭町立下関河内小学校五年 片野 玖美
我が子ほど 手しおにかけた 芋や豆
祖母 片野 時子

田の上を 美しく飛ぶ ホタルたち
矢祭町立石井小学校六年 松村 賢史
しのび足 そっと手をあげ 笑顔かな
母 松村 正恵

じいちゃんの ねいきのそばは あたたかい
鮫川村立鮫川小学校二年 矢吹 将晃
孫の手が 顔に当たって 夢覚める
祖父 矢吹 一男

楽しいな カメラの前で ブイサイン
白河市立白河中央中学校三年 池沢 友美
だれだっけ 見たことあるぞ 我が昔
母 池沢ひろ江

母困り やってやるよと 米運び
白河市立白河第二中学校二年 佐藤 雄大
米すりに 持ち上げられず 救いの手
母 佐藤 優子

テスト前 あせって勉強 母ティーチャー
白河市立白河第二中学校一年 野口 紗瑛
「教えて」に 「知らぬ」と言えず 再勉強
母 野口 倫子

気が付けば 父の手を引き 走る今
白河市立東北中学校三年 荒木 麻衣
夢に見た 我が子の背中 たのもしく
父 荒木 勝美

潮干狩り 転んでどこも 泥だらけ
白河市立大信中学校三年 関根 悠
あさり汁 双手で把み 泥の服
父 関根 茂

親子だね 好みもサイズも 似てきたよ
矢祭町立矢祭中学校二年 金澤美加
お揃いで 箆笥の中も 若返る
母 金澤 佳子

わあきれい おはなみたいね 五つば
西会津町立尾野本保育所 伊藤 果林
四葉より 笑顔ほころぶ 散歩道
保育士 高橋 洋子

おかあさん おびはじょうずに むすんでね
会津若松市立小金井小学校一年 永井 夏海
目の前の はしゃぐ兵児帯 我をみる
母 永井マユミ

ひまわりに まけないまけない せをのばせ
会津若松市立一箕小学校二年 三森 めぐ
ひまわりとおたんじょうびに せいくらべ
母 三森セツ子

ホームラン うつまでやるよ おとうさん
北塩原村立裏磐梯小学校一年 宍戸 洋音
もう勘弁 息子に体力 負けている
父 宍戸 浩和

おいしかった また作ってね じじのそば
会津若松市立城北小学校六年 和久井瑠香
ありがたい おいしい笑顔 また見せて
祖父 和久井茂雄

おかあさん ぼくのあさがお きれいでしょ
塩川町立駒形小学校一年 平宮 光陽
きれいだね あしたは何個 さくのかな
母 平宮 早苗

風呂上り あつい体に せんぶうき
猪苗代町立千里小学校三年 兼田 智章
お風呂場に 響く親子の 歌合戦
父 兼田 芳宏

きつかった ロープを使った 山登り
会津若松市立城西小学校三年 佐藤 佳奈
ギブアップ 声に出せない 親の意地
父 佐藤 善久

土手の上 自てん車走って 夏の風
会津若松市立荒館小学校三年 佐藤ひかり
草の香に 夏をかみしめ 走る道
母 佐藤 肇子

木のえだで セミのぬげがら すずしそう
会津若松市立河東第二小学校三年 梶内 大志
手のひらに そととぬげがら 乗せてみる
祖母 梶内 邦子

みつけたよ ちいさなかぶと ぼくのむし
金山町立金山小学校一年 中丸 渉
夏の夜 やつとみつけた 宝物
母 中丸 玲子

はなびもち けむりのとんねる くぐったよ
金山町立横田小学校一年 渡部 大地
我先に つけた花火に 子の笑顔
父 渡部 拓弥

がんばって じいちゃんまかし うれしいな
喜多方市立岩月小学校一年 伊関 珠奈
持久走 まけるものかと 秋日和
祖父 伊関 海介

うれしいな モンシロチョウのとびたつ日
喜多方市立慶徳小学校三年 岩崎 尚哉
あおむしも 子供の為に 好きになる
母 岩崎 友子

新漢字 正しくおぼえて じまん顔
喜多方市立慶徳小学校三年 加藤 優
うら覚え こっそり字引き 隠れ見る
母 加藤由美子

なつまつり 行ってよかった 母さんと
熱塩加納村立熱塩小学校二年 岩佐 絵夢
祭りの夜 そろいの浴衣 初披露
母 岩佐 詩織

水そうで かにとわたしが うたってる
熱塩加納村立熱塩小学校三年 花見絵理香
のんびりの カニをせかして 歌う姫
教師 岩橋 朋子

かあさんと 作るサラダは 楽しいね
檜枝岐村立檜枝岐小学校三年 星 桃子
味よりも ナイフを持つ手に ハラハラし
母 星 文子

指先に とまったとんぼと ひと休み
田島町立荒海中学校二年 渡部友里佳
高原の 風に吹かれて 二人旅
母 渡部めぐみ

さあこいと バットをかまえ せきに立つ
新地町立福田小学校五年 荒 拓実
かつ飛ばせ 大きな声で 激飛ばす
母 荒 多喜子

母さんの 大きな声えん ガンバルズ
新地町立福田小学校六年 横山裕有子
声高く 手に汗にぎる 好プレー
母 横山多慧子

ありがとう 言われて心が 熱くなる
新地町立福田小学校六年 猪狩 美香
腰痛め さつと差し出す やさしい手
祖母 猪狩ミツ子

食卓は 家族みんなの 笑い声
新地町立新地小学校五年 水戸 千春
集まれば 心も栄養 いただきます
母 水戸 伸子

プロキ士に ほめられしようぎ すきになり
相馬市立桜丘小学校三年 森 裕太郎
ふれあいの 将棋真剣 プロの棋士
祖父 森 義男

すもうの日 おすもうさんに へばりつく
相馬市立磯部小学校三年 船競 慎吾
初すもう まわし姿も たくましい
母 船競 絹代

ミニトマト 赤くなれなれ 食べたいよ
原町市立原町第二小学校二年 堀江 啓介
愛でられて 真っ赤に染まった 照れトマト
父 堀江 収

水の中 ぶかぶかあわが きれいだね
原町市立石上第二小学校一年 稲葉 朱里
もぐれたよ 笑顔の君を 抱きしめる
母 稲葉 綾

皿をふき 歌に合わせて 手が動く
小高町立福浦小学校四年 相浦 行宏
子どもとの 音がはずれて 手が止まる
母 相浦なつ江

最後まで 力をこめて 走りきる
小高町立福浦小学校六年 村田 謙
応援も 力が入る 大会新
教師 小野田陽子

早起きし おいしいべん当 ありがとう
浪江町立大堀小学校五年 猪狩 香苗
ありがとう からべんわたされ さああすも
母 猪狩 聡子

あさがおが どんどんさいて うれしいな
大熊町立大野小学校一年 中野 皓斗
子の気持ち 朝顔が知り 咲き誇る
母 中野 寿子

将棋では まだまだ勝てぬ じいちゃんに
榎葉町立榎葉北小学校五年 飯高 星哉
勝ち続け いつか抜かれる その日まで
祖父 松本 兼康

かわいいな いくらみても あきないな
広野町立広野小学校四年 佐藤 麻衣
愛おしい 二人の我が子 抱きしめる
母 佐藤 弘子

自転車の コギずつが 強くなる
県立浪江高等学校津島分校二年 樋口 智恵
山越えて 愛し教え子 会いに来る
教師 中塚久美子

雨の中 咲くこと願ひ 苗植える
県立新地高等学校二年 平川 理紗
明日こそは 花咲く君も 今日苗
教師 皆川 陽宏

花植えて 心もこだま 地域の和
県立新地高等学校二年 菅野友加里
花づくり はじめてなのと いい笑顔
地域の指導者 仁科 静夫

夜の空 目をこらしたら 星の海
いわき市立高野小学校四年 橋内 望
首傾げ 見上げる空に アンタレス
母 橋内 浩美

おばあちゃん ラジオたいそう たのしいね
いわき市立好間第四小学校五年 生天目美貴
頑張るよ 孫に負けずに いちに、さん
祖母 生天目芳子

キャッチボール つかれているのに ありがとう
いわき市立永戸小学校五年 佐藤 伸耶
グローブに 響くその音に 疲れ飛ぶ
父 佐藤 和芳

ハンバーグ 具をまぜるのが 楽しいな
いわき市立高坂小学校三年 岡 裕太
お料理を 一緒にしたら なお楽し
母 岡 智子

バーベキュー みんなあつまり たのしいな
いわき市立草野小学校五年 木村俊太郎
バーベキュー 親に代わりて 料理番
父 木村謹一郎

お父さん つばめを助け 喜んだ
いわき市立草野小学校五年 坂本 隼
ありがとう つばめが空を 舞い踊る
父 坂本 一実

暑いのに 家族そろって 庭そうじ
いわき市立中央台東小学校六年 吉田 朱里
汗流し 家族で掃除 時流れ
父 吉田 尚志





一 創作の動機を明確に

子どもと大人の共通体験や実際の体験をもとにして、感動したことや喜びを素直に表現している作品が多くあり、感銘いたしました。

しかし、中には、親と子の体験が別々のものであったり、具体的な活動がみえにくいものもありました。

まず、何を表現したいのか、テーマを明確にすることが大切です。どんな共通体験をして、どんな感動があったのかをはっきりさせて、表現してみたい内容を明らかにしてください。

人と人とのふれあいや心の交流は、体験活動を通して、さらに強いものとなります。

今後も、家庭や学校、地域等における自然体験や様々な体験活動から出てくる共通の感動や想いを大事にしてほしいと感じました。

二 表現方法の工夫を

自分の気持ちを言葉で表現する方法として、日本語の美しさや奥深さが感じられる五・七・五の日本古来の俳句形式による調べがあります。そのリズムを大切にしました作品が多くありました。

しかし、中には、理解できない言葉や難しい言葉が使われたために、活動の様子が思い浮かばないものもありました。短い言葉で表現するだけに、その中に光る言葉やたとえの言葉を入れるとイメージがわき、もの見方や考え方が広がっていくものと思います。

また、名詞だけでなく、副詞や動詞を使い、伝えやすい工夫をしたり、他の人には表せない個性あふれる表現をしてほしいと思います。

三 創作の過程を大切に

「教育の原点は家庭にある。」と言われます。心情の交流の土台は、家庭であり、親、兄弟姉妹、祖父母等とのかかわりです。また、学校の先生や地域の方々等とのふれあいで、さらに広がります。

この五・七・五の作品を創作するプロセスを一つの体験としてとらえ、子どもと大人が共に練り上げていく共通体験も大切にしてほしいと感じました。

作品の中には、もう少し親子で吟味し合うとさらに情景や感動が伝わりますばらしい作品になるものもありました。

審査過程からの感想と要望

あとがき

本年度は、二万七千二百四十六組の応募がありました。年々、応募者の世代が広がり、本事業の趣旨を御理解いただき応募される方が増えていることに大きな喜びを感じております。特に、親子が日常生活の中で、様々な体験活動を共になされていることにはうれしさを感じました。子どもの豊かな心や生きる力を育むためには、体験活動がとても重要であることが理解されてきており、学校や地域の社会教育施設等においても、様々な事業が展開されており、子どもと大人が一緒に取り組むすばらしい体験活動が、この事業を契機として、家庭から地域へさらに広がり、心の通い合いの輪が大きくなっていくことを期待しております。今後も本事業への御支援と御協力をお願い申し上げます。多数の御応募をいただきまして、誠にありがとうございました。